

山際大臣と教団

なぜ首相はかばうのか

外部からの指摘されて、初めて事実関係を認める。人を食つた説明で、眞摯な反省はあるがうかがえない。そんな不誠実な対応が何度も繰り返される。閣僚としての資質を欠くのは明白なのに、岸田首相はなぜ、かばい続けるのか。

世界平和統一家庭連合（旧統一教会）との関係が次々と明るみにひる山際大志郎経済再生相のことだ。国会の各党の代表質問では連日、野党から辞任や更迭を求められたが、山際氏も首相も全く取り合わなかった。

この間の山際氏の説明がこれまで、こんな真合だ。

16年に海外で開かれた教団の関係団体の国際会議について「報道を見る限り、出席したと考えるのが自然だ」。ネバールまで足を運んだというのに、参加した記憶はなかったのか。事務所が手狭になるからか、1年をめどに資料を廃棄し

ており、過去の行動を確認できなかつたという。それが本當なら、政治家として信じがたい記録の軽視である。

どこかで食つた記憶はあるが、記録がないので話がなかつたところが、18年の教団主催の会合での韓鶴子総裁との対面だ。「（2人が一緒に場にいる）写真を見て、記憶と合致した」というが、「証拠」を示されない限り認めないとどうでもいい。自ら進んで疑惑を晴らす気はない」と見える。

そもそも山際氏の資質に疑問符が付けられるのは、これが初めてではない。「野党から来る話は、我々政府は何一つ聞かない」。先の参院選の街頭演説でのこの発言を、決して見過さずわけにはいかない。

野党に投票した人も含め、国民全体に公平公正に審査するの

議員に不快な思いをさせたという、これまでの弁明からは、自らの責務への自覚があるとは思えない。これだけで閣僚失格と言わても仕方あるまい。驚くのは、その山際氏を首相がいまだに擁護していることだ。教団との関係を反省し、「今後は一切関係を持たないと述べてごる」と強調。あとば、自らの責任で「丁寧に説明を履く必要がある」と本人任せである。何に遠慮があるのか。山際氏が職を辞さないなら、首相が更迭すべきだ。

一昨日は、細田博之衆院議長が、教団との新たな接点を認め、追加報告を行った。文書一枚のねぎなりなコメントを批判されての再説明のはずが、今回も2枚で、公の場で質疑に応じることはなかった。行政府と立法府の長がともにこの姿勢では、政治不信は増すばかりだ。